

## 富谷小だより

渋谷区立

富谷小

学校通信

## 校内研究「自ら学びを調整し、学び続ける児童の育成」

校長 石川 亜由美

子供たちがこれからの時代を自分らしく歩いていくためには、どのような力や学び方を身に付けることが大切なのでしょう。

本校では、子供たちに必要な力を育てる、よりよい授業づくりを目指して、全教員が互いの授業を見合い、意見を交わす校内研究を続けています。

今年度の研究主題は、「自ら学びを調整し、学び続ける児童の育成～探究的な学びを支える『考える技・学びの技』の習得・活用を目指して～」です。左下には、この研究の全体像を構想図で示しています。

「自ら学びを調整する」とは、子供が学習のめあてをもち、自分がどこまで分かっているかを確かめながら、自分に合った学び方を選んだり工夫したりすることです。例えば、分からないときに教科書を読み直す、図や表に表す、友達の考えを聞く、先生に尋ねるなどの方法を試します。そして学習の終わりには、できるようになったことを振り返り、次に取り組みたいことを考えます。本校では、このように自分の学びを見つめ、よりよい方法を考えながら学び続ける姿を大切にしています。

こうした「自ら学びを調整する力」は、昨年度までの授業でも大切に育ててきました。今年度はさらに、国語や社会などの各教科と、シブヤ未来科（総合的な学習の時間・生活科等における探究的な学び）とを結び付け、行き来しながら学びを深めることを大切にしています。各教科で身に付けた力を、シブヤ未来科における、問いをもつ、人と関わり合いながら調べる、考えをまとめる、伝える等の場面で生かします。また、シブヤ未来科で生まれた「もっと詳しく知りたい」「この力が必要だ」という気付きを、各

教科に戻って学び直し、さらに深めます。こうした学びの積み重ねを通して、「考える技」と「学びの技」を使いながら、学び続ける力を育てていきます。

9月には、1年の算数「かたちあそび」を題材に授業研究を行いました。子供たちは、家庭から持ち寄ったさまざまな形の立体を、いろいろな方向から見たり触ったりしながら、その特徴を比べました。そして、似ているところや違うところを見つけて仲間分けをし、「なぜそう考えたのか」を友達と伝え合いました。右下の図は、低学年で共通して活用している「考える技図鑑」です。子供たちは、「比べる」「仲間分けする」「いろいろな見方をする」という技を使って、自分の考えをつくり、友達との対話を通して深めています。

このような「考える技」は、さまざまな学習で繰り返し使うことで身に付き、算数だけでなく、他の教科や探究的な学びにも生かせるようになって考えています。

前期の終了まで、残すところ1週間となりました。終業式の日には、通知表「あゆみ」を持ち帰ります。担任や授業を担当する教員は、学習の結果だけでなく、そこに至るまでのお子さんたちの努力や工夫、成長の過程にも目を向けて記述しています。ご家庭でも、お子さんと一緒に「あゆみ」をご覧ください、できるようになったことや頑張ったことを、ぜひ言葉にして伝えてください。その上で、「次は何を頑張りたいか」「どのように取り組みたいか」を話し合ってください。このことが、子供自身が学び方を考え、次の一歩を踏み出す力につながります。

学校と家庭とで子供たちの成長を共に認め、後期の学びを温かく支えてまいりましょう。

